

学校関係者評価報告書

(令和6年度)

富山市立富山ガラス造形研究所

令和7年3月

富山市立富山ガラス造形研究所 学校評価委員会は、令和6年度 学校自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を行いましたので、その結果を以下の通り報告いたします。

1 令和6年度 富山市立富山ガラス造形研究所 学校関係者評価委員会

日 時 令和7年3月19日（水）13:30～15:10

場 所 富山ガラス造形研究所

出席者 学校関係者評価委員会委員 5名

今淵 純子（富山大学芸術文化学部准教授）

大野 満（富山市企画管理部次長）

坂田 裕昭（ガラス造形作家・研究所卒業生）

畠山 耕造（本校非常勤講師）

委員長 山口 忠司（（一財）富山市ガラス工芸センター専務理事）
（五十音順）

事務局 6名

恒川 哲二 富山ガラス造形研究所 所長

本郷 仁 富山ガラス造形研究所 参事（主任教授）

中神 牧子 富山ガラス造形研究所 主任教授

松藤 孝一 富山ガラス造形研究所 教授

石黒 隆司 富山ガラス造形研究所 事務長

水原 裕美 富山ガラス造形研究所 副主幹

2 基準ごとの学校関係者評価、意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

- 【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか。
- 【1-2】 学校の特色は何か。
- 【1-3】 学校の将来構想を抱いているか。

○ 教育理念・目的・育成人材像等については、概ね適正と考えられる。

基準2 学校運営

- 【2-1】 運営方針は定められているか。
- 【2-2】 事業計画は定められているか。
- 【2-3】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか。
- 【2-4】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。
- 【2-5】 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

○ 学校運営は、概ね適正に行われていると考えられる。

○ 情報システム化による業務の効率化については、教職員アンケート結果からも情報通信技術を有効活用できる余地がまだ残っているようであるので、業務のペーパーレス化やAI翻訳の授業内での有効活用等をさらに進め、効率化を図られたい。

基準3 教育活動

- 【3-1】 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか。
- 【3-2】 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか。
- 【3-3】 カリキュラムは体系的に編成されているか。
- 【3-4】 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか。
- 【3-5】 授業評価の実施・評価体制はあるか。
- 【3-6】 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。
- 【3-7】 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。

【3-8】 地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか。

- 教育活動は、概ね適正に行われていると考えられる。
- カリキュラムが過密でハードだと捉えている学生が一定数存在することがアンケートからも窺えるが、それを乗り切ることで将来の自立に向けての自信につながる側面もあり、「きめ細かな個別指導」という本校の重要な特色も深化させながら、教育の質との適当なバランスを探り、教育活動をさらに充実させられるよう検討を進められたい。

基準4 教育成果

【4-1】 就職率（卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率）の向上が図られているか。

【4-2】 退学率の低減が図られているか。

【4-3】 卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか。

- 学生に対する2年間のカリキュラムの中で、一人の作家として活動していくことの厳しき、将来どのように自立していくのか、どのように作品を売っていくのかといった面を教えていくことも必要ではないか。
- 卒業生の自立支援という面を強化するために、学生とガラス工房所属の若手作家との交流・対話をより一層深めることを今後、工房と研究所とで、少しずつ議論を深めることが大事である。このことは「ガラスの街・とやま」の連携強化にもつながることである。

基準5 学生支援

【5-1】 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか。

【5-2】 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか。

【5-3】 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか。

【5-4】 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか。

【5-5】 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか。

【5-6】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか。

【5-7】 保護者と適切に連携しているか。

【5-8】 卒業生への支援体制はあるか。

【5-9】 留学支援や海外との提携による国際教育交流の体制はあるか。

- 学生支援は、概ね有効に機能していると考えられる。

基準6 教育環境

- 【6-1】 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。
- 【6-2】 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。
- 【6-4】 防災に対する体制は整備されているか。

○ 教育環境は、概ね適正に整備されていると考えられるが、近年の酷暑下におけるホットショップ内での授業や作業については熱中症のリスクが高いため、安全な環境整備のために必要な方策の検討に努められたい。

基準7 学生の募集と受け入れ

- 【7-1】 学生募集活動は、適正に行われているか。
- 【7-2】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか。
- 【7-3】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか。
- 【7-4】 学納金は妥当なものとなっているか。

○ 学生の募集と受け入れは、概ね適正に行われていると考えられるが、少子化が進行している厳しい時代であるので、SNS等を活用して、子どもたちにガラス造形の専門学校で学ぶことの魅力を感じてもらうことや、研究所卒業生の卒業後の声、思いを積極的に発信するなどの取組みを通して、将来の志望人材の増加につなげてはどうか。

基準8 法令等の遵守

- 【8-1】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
- 【8-2】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。
- 【8-3】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。
- 【8-4】 自己点検・自己評価結果の公開をしているか。

○ 法令、設置基準等の遵守と適正な運営は、概ね適正に行われている。

基準9 社会貢献

- 【9-1】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。
- 【9-2】 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。

○ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、学生のボランティア活動の支援は、概ね適切に行われている。